

市立養護老人ホームのあり方について

○7月22日開催「岡山市総合政策審議会保健・福祉部会」の内容

(1) 議題 報恩積善会視察・関係職員からの意見聴取

(2) 主な意見等

<施設長>

- ・ 施設と地域住民が自然と解け合っていることが一つの特徴である。地域の一員として受け入れられており、ボランティアの受け入れ、クラブ活動や喫茶、会食サービスによる地域のお年寄りとの交流等で風通しはいいと思う。
- ・ 配食サービスを津島地区の高齢者へ安否確認を兼ねて行っている。支出の方が多い状態ではあるが、範囲を広げたいとも思っている。また、地域の高齢者を招いて会食サービスをしている。これは「孤食」「個食」の解消に役立っており、特別な準備も不要なので、他の養護老人ホームでもやってほしい。
- ・ 管理については、掃除なども委託しないで職員が自ら行ったり、ボランティアの受け入れ等で経費節減に心がけている。
- ・ できるだけ施設外の行事への参加を心がけている。在宅への復帰は、家庭の事情で入所している方も多くむずかしい。
- ・ 食事については、時間が選択できることが必要と考え実施している。今後、1時間の幅をもっと延ばせるか検討している。
- ・ 今後、民営化がスピードアップしていくと思うが、養護老人ホームは最後のセーフティネットであり、岡山市の場合は公的責任として、センター的役割を持つ1施設は必ず残してほしい。そして、公的な部分で一番困っている人を引き受けていただきたい。

<相談員>

- ・ 施設を特別なところと思っていない。町内の大きな家と思っている。
- ・ ケアプラン会議等で職員間の連携を図り、入所者には、いつも笑顔で、たのしくかわり仕事をしている。

<栄養士>

- ・ 朝食から夕食までの時間が最低10時間は欲しいと考えているので、朝食は7:30から1時間、夕食は5:30から1時間、その間は自由に来て食べて良いことにしている。そして、ウォーマーテーブルを用意して、温かい食事を食べてもらっている。
- ・ 給食会議に入所者も参加してもらい、意見を聞いて献立を立てている。
- ・ 下痢等の症状のある方は、朝のミーティングで介護・看護職員と連携し、その日の体調にあった食事を提供している。
- ・ 夕食は、午後5時半から午後6時半までだが、済んだ食器から洗っており、調理場は午後7時には退勤している。
- ・ 流動食等は材料が1人前必要ない場合もあるので、入所人数分より少ない食材を仕入れるとか、無駄なものは買わないなどの方法で食費を抑えている。地元産の野菜も使っている食事を提供している。

<委員>

- ・ 配食、会食は、地域と密着につながっていて、そういうニーズをよくとらえている。
- ・ 養護老人ホームが変わってきているのではないかと。痴呆等の介護の必要な利用者が増えてきており、寮母の数が足りないのではないかと。
- ・ 食事時間に選択幅があるのは、すばらしい。温かいものを自分でとって、できないときは、それを補助して、本当に家庭と同じようだ。
- ・ 民間は、新しいサービスを生み出す力があると思う。地域交流によっても、利用者ももっと豊かになるために、いろいろなサービスを生み出していると思う。